

みいよく通信



「魅力ある学校づくり地域協議会関係者研修会」の報告について

- ・ 標記研修会が、平成31年2月27日（水）に宇都宮市役所14階大会議室で、62名の関係者の方の参加を得て開催されました。
- ・ 前半の事例発表では、国本中学校地域協議会、西小学校地域協議会、戸祭小学校地域協議会から、子どもへの学習支援活動や地域・親子による防犯活動、地域パトロールによる安全確保運動に関する取組事例などについて紹介していただきました。
- ・ 後半の情報交換会では、小学校と中学校ごとにグループに分かれ、「『学校における働き方改革』につながる地域協議会活動」や「特色ある地域協議会活動」について、活発にアイデアを出し合いました。

事例発表① 国本中学校地域協議会

「生涯学習センターと連携した放課後の学習支援「ありんこ学習室」

地域コーディネーター 半田 千佳子 氏

ありんこ学習室学習支援員 金田 敏彰 氏

1. 活動経緯

○元高校教員である金田氏は、勉強についていけないことがきっかけで、退学に至ってしまった生徒を多数見ており、「退職後は、学習支援を通して子どもたちを助けたい」という思いから活動を始めた。

2. 活動内容

○生涯学習センターを活用し、部活動が休みの毎週水曜日の放課後に学習支援を行う。学習方法は生徒自身が持ち込んだ教材による自習を基本とし、生徒が分からない問題は先生に質問すると、個別に教えてもらうことができる。また、個人の理解度に合わせた丁寧な指導を行っている。学校による参加募集のチラシ掲示や、地域コーディネーターの協力を得ながら実施している。

3. 成果

- ・ 「ありんこ学習室」での継続的な学習を通して、生徒たちの学習に対する意欲が向上してきており、地域の教育力によって、学習習慣の定着が図られている。
- ・ 地域コーディネーターが企画・運営し、その活動を学校が周知面で支援するなど、地域と学校の役割分担のもと、円滑に実施できている。
- ・ 新たな取り組みとして、新1年生を対象に春休みに学習支援をすることで小中連携や中1ギャップ解消に繋げる予定である。



事例発表② 西小学校地域協議会

「地域団体の連携・協力による『親子で110番の家を回ろう』」ほか

地域協議会会長 田中 洋一 氏

地域協議会役員 加藤 能久 氏



1. 活動目的

○学区内をよく知ること、また、ほかの親子と一緒に活動することで交流を図ることを目指している。
○共働き世代が多く、各家庭だけで実践するのは難しいため、地域ぐるみで防犯意識を高める。

2. 活動内容

○低学年児童やその保護者を対象に、児童の安全確保を図るため、地区内の110番の家の場所確認・挨拶・空き家や危険箇所の点検を行う。

○実際に飛び込み体験をし、助けを求める練習をする。また、携帯電話会社のキャリアショップなど、児童にとってはなじみが薄い場所への飛び込みに挑戦することで、抵抗感を和らげる。

3. 成果

- ・ 親子で身近な危険を把握することができるとともに、地域の方の見守りの目を実感することができ、児童の安心感に繋がっている。
- ・ 事前に110番の家の方々と顔を合わせることで、今後、安心して利用できる。

【地域の教育資源を生かした活動紹介】

野外体験活動 「くんぺい君クイズウォーキング」

地域の偉人である蒲生君平の生誕250周年に際し、ゆかりの地をめぐりながら、蒲生君平の地域への貢献や歴史へのかかわりを、クイズで学ぶ野外体験活動。小学生のグループに帝京大学生や一条中学生がサポートにつき、地域の人を交えて合わせて60名が参加。

事例発表③ 戸祭小学校地域協議会

「とまつりパトロール会の協力による昼休みの安全確保活動」

とまつりパトロール会長 中根 淑夫 氏



1. 活動経緯

○地域コミュニティセンターで開講している「生き粋実年者学級」受講者が、学校長から依頼を受けて「とまつりパトロール会」を設立。地域の力で子どもたちの毎日の安全を確保することをねらいとしている。

2. 活動内容

○昼休みの校庭で、子どもたちが安全に安心して遊ぶことができるよう、巡回指導を実施している。

○子どもたちとの挨拶や会話を通して、状況に応じて学校へ情報提供をしている。

3. 成果

- ・ 緑色のベストを着て校内を歩くことで、外部不審者等の校内侵入の抑止力となっている。
- ・ 水道や遊具の不具合を学校に報告することで、危険を未然に防いでいる。
- ・ 地域の大人との日常的な交流が、児童に感謝や思いやりの心を育て、健全育成にも繋がっている。



6班

- ①研究授業時の児童の見守りや水泳の授業の見守りなど、教師の手が回りにくい部分をカバーすることができる。
- ②地域に住む高齢の方は、地元で長年に住まわられていて土地に詳しく、地域学習の力になってくれる。今後はよりこういった地域の人材発掘に力を入れていけるとよい。

4班

- ①低学年の遠足に他学年の保護者が引率するという取り組みをしている例がある。簡単なものから教師の支援をするなど、できることから少しずつ取り組んでいきたい。



9班

- ①中学校は小学校に比べると、学校へ保護者の力を取り込みにくい、「敷居の高さ」を感じてしまう部分がある。そこには、学校がどのような支援を望んでいるかが不明瞭であることが関係している。学校側が、「こんなことをしてほしい！」と率先してアウトプットし、地域コーディネーターがインプットするというやり取りを増やし、密接な関係を築くことが求められる。

行政説明 ～「学校における働き方改革」に関する情報提供～

平成28年度に国が行った調査によりますと、時間外勤務が月80時間を超える教職員の割合は小学校で33%、中学校で57%と、長時間労働の実態が改めて明らかになり、教職員の健康管理や教育の質を低下することなく効果的に教育活動を行うためにも、「学校における働き方改革」に更に取り組む必要があります。

本市におきましては、これまで学習情報システムやインターネットバンキングの導入などによる校務のICT化や、学習指導助手や学校図書館司書の配置など、業務改善による負担軽減や人的環境の整備に取り組んできました。

今後は、勤務時間外における電話連絡体制の整備や学校事務支援スタッフの新たな配置、部活動指導員の拡充など、「学校における働き方改革」を更に推進してまいります。

「学校における働き方改革」を実現するためには、教育委員会や学校だけでなく、保護者やPTA、地域協議会、ボランティアの方々など、多くの皆さまのご支援やご協力が不可欠です。子どもたちのより良い教育環境づくりに向けて、引き続き、皆さまのご支援やご理解をお願いいたします。

まとめ

本研修会の実施にあたりまして、事例発表者の国本中学校地域協議会、西小学校地域協議会、戸祭小学校地域協議会の皆様には、多大なる御協力をいただきました。大変ありがとうございました。本研修会が、参加者の皆様の今後の活動の参考となれば幸いです。

今年度の研修会もこれで最後となりましたが、来年度も研修会を充実したものにできるよう努めてまいりますので、積極的な御参加をお待ちしています。